

ゆめ わらわ 夢 立軍

菅波 茂

先月24日から6日間。広く活躍しています。その台湾の台北でAMSAとして2015年に同窓会（アジア医学生連絡協議組織のAMSA Alumni Club）も設立された。アジア・大洋州を1984年に設立した14人の医学生が参加。したが、そのスローガンその開会に際して、AMSA創設者としてのメッセージを要望された。内容は皆様が学ばれている知識は経験によって知恵に昇華します。知恵こそ社会が必要としています。AMSAの皆様にこのメッセージを送れることを大変幸せに思います。ご存じのように1980年にAMSAを設立しました。その時のスローガンは「将来のアジアのためにより良き医療プロジェクト」でした。多くのAMSAの先輩たちが各

国で臨床から行政まで幅ができればと思います。

「トリプルAパートナーシップ」構想

このような協力関係を。Triple A Partnership」と命名した精神です。医師免許を与えられた仲間として皆様にお会いできる日を頼を構築します。これが可能になればAMSAとAMSA東アジア会議が創設者として私の最高の喜びです。医師免許の命は「人を助ける、人を救え、人を見放すな」で



1980年、バンコクでの第1回AMSA会議。中列右から3人目が遠田氏、6人目が牛尾氏、前列左端は筆者

Triple A P 専門家としてベトナムのハノイで活躍予定。同じ耕平先生（昭和58年秋田大医学部卒）も一貫した信念に基づき、WHOの拡大予防接種計画（EPI）の専門家としてベトナム、現在はフィリピン

の第一線で貢献している。私たち3人のご縁は1980年のタイ国カオイダンでのカンボジア難民救援活動だった。私たち日本人はアジアの人たちに対して助けることだけを考えた（昭和57年岡山大医学部卒）が、昨年10月1日付で厚生労働省大臣官房審議官（がん対策、国際保健担当）を最後に退官した。退官後はJICの技術協力が構築できる。

近い将来に発生する南海トラフによる地震と津波被害は甚大と予測。日本国内だけの解決は不可能。海外医療チームの受け入れが不可欠である。AMDA南海トラフ対応プラットフォームは高知県知事と徳島県知事との協定のもとに10カ所の避難所医療活動準備を進めている。欧米のみならず、中国、香港、マカオ、シンガポール、フィリピン、マレーシア、ベトナム、インドネシアなどの医療チーム受け入れを念頭に置いている。特に、文部科学省奨学生として留学経験のある医師の存在は重要である。

GPS（世界平和パートナーシップ）構想にもこの視点があることをご理解いただければ幸いです。（AMDAグループ代表）